

「東日本大震災」と名付けられた大地震と津波さらに、原発。被害状況が明らかになるにつれて混乱が大きくなっています。情報が交錯し、不安が増幅する「よくない連鎖」に陥っていることを憂慮します。

とりあえず、ここは、「犯人探し」ではなく、リスクを低くする努力をするしかないと思います。

責任の擦り付け合いを許さない「リスクマネジメント」をどう構築するか、を考えていかなければなりませんし特に、都道府県の役割と連携は重要だと思います。

新西尾市でも、希望者を募って支援隊を被災地に送れないものかと思っています。

今から必要とされる人員はわかっています。行政職員と保健師、保育士も。また、消防士は引き続き必要ですし、水道・下水道の専門職も。

行政職は、県経由の仕組みができつつあるようですが、保健師や保育士などもチームでの派遣が出来ればいいのにと私は願うのですが。

福島第一原発の作業員の作業環境は、兵站…食料は現地調達すべしという「太平洋戦争の日本軍」と同じように見えます。悔しいことに、空母ロナルド・レーガンの乗員室の設備を見るとその差に愕然とします。

早急に、落ち着いて作業が出来るように、ちゃんと休む時は休める環境をつくらないと、まともな判断も出来なくなってしまう…そんなことにならないようにする責任者が、東電にはいないのか！そんなバカな…と思いながら、「作業員は毛布1枚にくるまって寝る」という報道に愕然とします。作業員は駒じゃないし、ロボットでもありません。

大事なところが大事にされていることが判れば、国民の不安も少しは和らぐのではないかと考え込む毎日です。

4月1日、市役所本庁では、市民課も税務課、福祉、長寿課もシステムは順調に動き、混乱もなく業務を終えました。

やれやれ、一安心です。

午後は混み合ったようですが、私がいた朝方、午前中は平常より多いという程度で、夜も6時半時点では、どの課も片付けに入っていました。

前日は、最終チェック。

上記はじめ該当課では帰宅したのは、1日の朝4時だとききました。これほど大急ぎで進めた合併ですが、混乱なく業務が移行できたのは、職員のみなさんの頑張りの成果！！大いに敬意を表します。

まさに、これから、長い道のりが始まります。

市長には、性根を据えて、仕事をしていただかなければなりません。「合併さえできたらオシマイ」ではないですからね。

私も、議員の仕事として、

今年の予算がどのようになっているのか、これから順に、お知らせをしていきたいと思えます。

何が問題で、どうするのがよいか…一般質問では、代案を出しながら市長の考えを問いましたが、

予算についても、さらに、それを進めていきたいと考えています。

また、このサイトを読んで下さる方たちにもご意見をいただきたいと願っています。

東日本大震災で、多くの国民が「国の財政」について

目を向けるようになったと思います。これは幸いです。

自分たちの生活が、税金で賄われていることを理解しつつ、今、どう遣うのがよいのか、しっかり考えるべき時だと思います。